

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 26 年 6 月 19 日 (2014.6.19)

【公表番号】特表 2013-533528 (P2013-533528A)
 【公表日】平成 25 年 8 月 22 日 (2013.8.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-045
 【出願番号】特願 2013-509051 (P2013-509051)
 【国際特許分類】

G 0 6 Q 10/00 (2012.01)

G 0 6 Q 10/06 (2012.01)

【 F I 】

G 0 6 Q 10/00 1 4 0

G 0 6 Q 10/06 1 0 0

【手続補正書】
 【提出日】平成 26 年 4 月 30 日 (2014.4.30)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 4 2 】

図 3 は、本発明の例示的な実施形態による、多重レベルを有する数値トライ木データ構造の一例を示す。ここでは、第 1 のレベル 2 6 のバケツ 2 5 は、第 2 のレベル 3 1 に関してはピンとなり得、そのピン内には複数のバケツ 3 2、3 3、及び 3 4 が存在することができる。追加的なレベルを可能にすることにより、数値トライ木を再平衡化させる必要性を減らすことができ、計算費用を回避することができる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 5 5 】

上述のように、移行比を減衰で更新することの代替法は、移行比を、アクティビティ・ログ内でのその発生レベルのみに基づいて更新することである。例えば、ノード「a」からノード「b」へのエッジ e_1 についての移行比を更新することは、現実のビジネス・プロセス実行のトレースにおいて e_1 が検出された回数の $c(e_1)$ で表されるカウントをとり続けることであり、このトレースは 1 . . . , T と記述され、T は直近に受け取ったトレースであり、総計で $|T|$ 個のトレースをこれまでに受け取っている。したがって、

$$\phi_a^b(t+1)$$

は、例えば、以下の方程式に従って計算することができる。

【数 1 2】

$$\phi_a^b(t+1) = \frac{c(e_1)}{|T|} \quad (3)$$